

ワークショップ

「薬局プレアボイド」を患者とその家族に理解して戴くためのリテラシーを高める」

澤田 康文(東京大学大学院 薬学系研究科 育薬学講座 客員教授)

昨今、医薬分業の意義が多くの場面で改めて議論されています。そのような中で、薬局薬剤師が行う“疑義照会”について、経済的側面のメリットは社会的には理解されつつあるものの、最も本質的かつ国民への直接的なメリットともいふべき、薬物治療上のメリットについての国民からの理解は乏しいと考えられます。

そこで今回のワークショップ(WS)では、医薬分業のメリット(とりわけ、薬物治療上のメリットとしての『薬局プレアボイド*])を個々の患者とその家族(以下 患者等)に理解してもらうための具体的な説明内容や方法を検討します。

WSでは、まず、特定の薬局プレアボイド(疑義照会事例)の素材が提示されます。その後、グループワーク**を通して、①“薬剤師”から“患者等”への出来事の説明、②①に対する“患者等”から“薬剤師”への予測質問・疑問、③②に対する“薬剤師”から“患者等”へのさらなる説明や指導内容などを検討していただきます。すなわち、グループ毎に、“患者等”がどのような質問や反応をしても、“薬剤師”としてトラブルや誤解がなく充分に対応できるよう準備をします。最後に各グループの①、②、③の検討結果の共有と実践を目的としてロールプレイによる発表と総合討論を行います。具体的には、薬局カウンターでの服薬指導を想定して、“患者等”役(例えばグループAの参加者)と“薬剤師”役(グループBの参加者)とのやり取りを実演していただきます(役を入れ替わってのロールプレイも行います)。これらをふまえて、「患者とその家族から【ありがとう】と最後に言ってもらえる、医師が厭な思いをしない、薬剤師の自慢話にならないコミュニケーションリテラシーをどう構築するか?」を参加者全員で考え、議論したいと思います。

本WSが、薬剤師個人、個々薬局の果たす役割の中から“薬局プレアボイド”を“患者等”に理解してもらうためのリテラシーを高める機会となることを願っています。

薬局プレアボイド*：薬剤師が患者基本情報を適確に収集し適正な処方チェック・薬学的患者ケアを実践して有害反応・治療効果不十分、精神的不安、経済的損失等を回避或いは軽減した事例

グループワーク**：本WSは参加者 16名(予定)で行います。参加者をグループA、B、C、Dの4グループ(各4名)に分けます。①②③のワークは各グループで別々に行います。ロールプレイはグループAとグループB間、グループCとグループD間で別々に行い、最後に全体での総合討論を行います。

略歴

1974年 東京大学 薬学部 卒業
1990年 東京大学 医学部 助教授
1995年 九州大学 薬学部 教授
1999年 九州大学大学院 薬学研究院 教授
2004年 東京大学大学院 薬学系研究科 教授
2005年 東京大学大学院 情報学環 教授
2009年 NPO法人 医薬品ライフタイムマネジメントセンター センター長
2016年 東京大学大学院 薬学系研究科 客員教授
NPO法人 医薬品ライフタイムマネジメントセンター 副理事長・センター長
現在に至る